

食品ロス削減 先進事例学ぶ

松山でセミナー

食品ロスの削減をテーマにしたセミナー(県主催)が1日、松山市道後町2丁目の県民文化会館であり、流通や福祉関係者ら約30人が講演や先進事例などを通



食品ロスの現状やフードバンク活動について話す難波江住さん＝1日午後、松山市道後町2丁目

じ削減への道筋や社会貢献の在り方を考えた。

新居浜市のNPO法人。

アジア愛媛理事長で全国食

品ロス削減研究会副代表の

難波江住さん(新居浜市)が

基調講演。国内の食品ロスが

事業系328万トン、家庭系28

4万に上るとの農林水産省

の推計(2017年)を示し

「ปริมาณが食品自体の問題よ

う包装不良などで自主回収

になった食品が多い。農作物

や魚なども含めるとさらに

増えるだろう」と解説した。

食材を子ども食堂や福祉

団体などに提供するフード

バンク事業を手掛ける立場

から「食われるのに捨て

られる『もったいない食料』

を、必要としている人を助

ける『思いやり食料』にす

べきた」と強調。「企業側

もフードバンクと連携し

地域共生社会に参加してほ

しい」と話した。

食品スーパーのハローズ

(本部・岡田県)の大田光

一商品管理室長は、同社の

食品ロス削減の事例を発表

した。地元フードバンク

の調整の下、子ども食堂や

福祉事業所、更生保護施設

などに向け、全ての系列店

で販売できない食品などを

提供する仕組みを整えてい

ると説明。「廃棄率の削減

に力を入れているが、それ

でも廃棄食品は出る。新型

コロナウイルス禍で食に困

っている人の中、なる

べく捨てずに提供したい」

と訴えた。(西尾寛昭)